

バブル景気変動的パタンと、その生成システムについて

1 L-6

横田 誠 武田 景一郎
電 気 通 信 大 学

1. ま え が き

感性対応システムの部分システムとして、市場交渉的システムを考えている。一般のシステムが「生」きていることが求められるとして、そのシステムの特性として景気のパタンを生成すると考える。この場合も、経済システムにおけるのと同様な、市場交渉的システムの特性に依存して、景気のパタンが生成されると考える。市場交渉的システムには、その失敗システムが問題となる。今回は、その失敗システムの典型としてバブル的景気パタンと、その生成システムについて考える。これ等は伝子工学的に、生成パタンは線路系とし、生成あるいは対応システムは回路システムとして考え行くこととなる。

2. 情 報 的 災 厄 対 応 系 に 関 す る、伝 子 工 学 系 に お け るバブル的景気変動パタン系

(1) 「源系」系、「元型」系

伝子工学系の構成概念に「源系」系と「元型」系がある。

「源系」系：この世に出現した、経験した「モノ・コト」の系

「元型」系：在り得る、あるべき「モノ・コト」の系

系全体を、主体者である人間から見て、本体系として、主体者である人間の意識空間の内にあるとする。

しかし主体者である人間系は、世界即、系全体の構成要素でもあり、それに所属もする。系全体は、自然系と、人工系と、人間系から成り立っている。これ等は又、時系列として、進化過程にもある。この過程は「源系」系である。意識の主体である各々の人間は、生物的「源系」系に乗った、文化的「源系」系の個体的現在系である。特に文化的「源系」系は両親等の個的な生物的「源系」的系ばかりでなく、他即ち、集団的人間系と、それ等から生成される人工系に関する「源系」系である。

情報的災厄系にも、「源系」系と「元型」系が考えられるが、ウイルス的なものや、今回のバブル的ものについても、両方から考える必要がある。

(2) 「活性」系、「厚生」系

伝子工学系の構成概念に生生系（システムの生が生きている）があり、これは「活性」系と「厚生」系の調和的な相補系である。モノには何らかの特性があ

Makoto YKOTA, Kehichiro, TAKEDA,

The University of Electro-Communications
Bubble-Transactions Fluctuation Patterns and
the Generating Systems

る。特性には、(線形) 静的なもの、(非線形) 動的のものがあり、今回のようなバブル的なものは、後者の動的な系から生成される。動的なものには、「活性」系と「厚生」系がある。活性系がなければ、動的系と云えない。しかし活性系のみでは爆発的、破滅的、今回のバブル的事態を生成する可能性が多い。一方、活性系なしの、厚生系のみでは世界が成り立たない。従って動的系が存在することは、バブル的事態をも生成する可能性が先ずあって、その系が、いわゆる生きた状態にある為には、その災厄的なものを抑制除去又は、それから回避の為の厚生系が必要である。

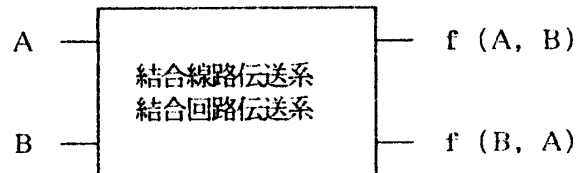


図1. 基礎市場システムとしての、結合線路伝送系、結合回路伝送系

図1には、全ての人工システムを、線路と回路の立場から、二つの伝送モードの結合伝送系として示した。この内、線路伝送系としては、結合線路系として、クロストーク、特にファーエンドクロストークの問題があり、これは情報的災厄系の基礎系である。回路システムは、元来線路系の接続系でもあるが、機能的にはフィルタ回路系になる、この回路系が進化をつづけ、ニューラルネット的回路系、AL的回路系、ヒューマノイド系に関連して、シーケンシャルフィルタ：SF系（現在のコンピュータシステムがこれに含まれる）や、又動的システムとしての非線形フィルタ：NF系（カオティックパタン生成システムが含まれる）の立場から考えられる。コンピュータウイルスによるもの等は、クロストークに加えて、組織破壊や、パニック混乱に結びつくものである。

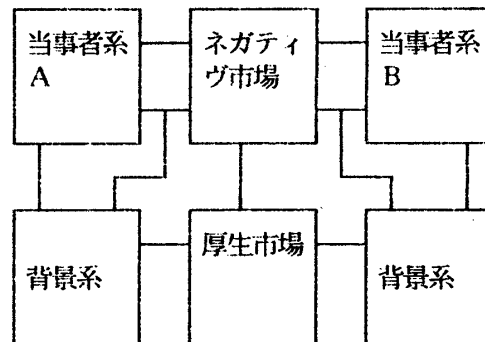


図3. 厚生市場により制御を受けるネガティブ市場系

4. 感性対応システムと、その部分系としての市場交渉的システム

図4には、人間の感性機能に近似した回路モデルとして、これを市場系として、これに入力される特性パタン系と、出力パタン系との接続関係が示されている。市場的系と云うものが、人間の意識に依存するとすると、人間は、視覚・聴覚・味覚対応の特性パタンを感受し、またこれを発信する。感性対応システム内部では、神経情報処理系としての、内皮系(大脳系)の内に中間処理が市場交渉的系であり、その前後の、不確定などの条件もあるが、バブル的や、無気力的な対応は、この部分に支配されるものと思われる。

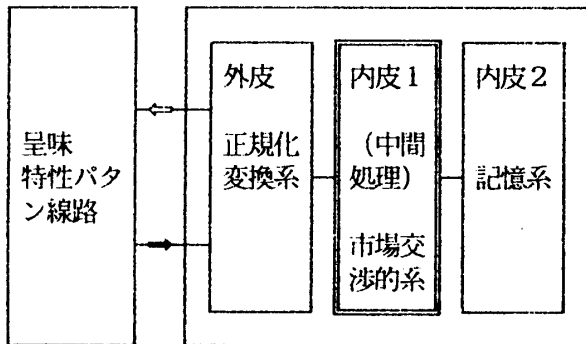


図4. 特性パタン対応の感性システムと、その部分系としての市場交渉的システム

市場系の典型として経済的市場がある。図5に示したようにバブル的現象に関係の深い3つの市場の関連がある。この内、生産物市場は、実体系であり、これにたいして、他の2市場系が、この実体系の実態から離れてしまえば、迷走的になりバブルが発生する可能性が出てくる。これ等の系は、制度デザインの問題系であり、約束系の問題系になる

[約束系]としては：法制系，貨幣系，慣習系，人情系があるが、これに関しての対応系としての[アロー的系]があり，保険市場的系や

逆選抜問題の帰結として：70'70 レモンの原理
企業の就職希望者の選抜，83'73 シグナルの役割等がある。次に図5に関連しての、バブル条件としては、ストックについて、

資産A：生産活動に直接していないストック
(金融資産，土地)

P_A ：資産価格

資本K：生産活動に直接しているストック

P_K ：資本価格

[文献]

- 1) 横田 誠，他：“感性対応系の部分系としての情報の災厄発生系と、保険的対応系” 電子情報学会春大会，1995，3，
- 2) 横田 誠，他：“レモンの原理系としての、市場交渉的回路システムの基礎系・” 情報処理学会秋大会，1994，9，
- 3) 横田 誠，他：“市場システム，基本的回路，「コースの定理」的制度デザインの適用” 情報処理学会春大会，1992，3，
- 4) Arrow, K. J.: "Alternative approaches to the theory of choice in risk-taking situations" Econom., 1951,
- 5) McKenna, C. J.: "The Economics of Uncertainty", 1986,

資産価額 資本価額
 $P_A A > P_K K$ がある。

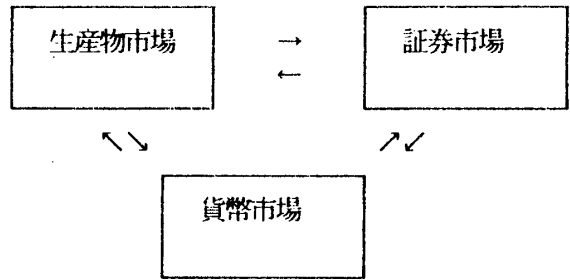


図5. マクロ経済的3市場の連鎖系

5. 市場の失敗的系と、それからのバブル景気変動のバタンの生成と、その対応系

図6には、生出力システムと、二つのネガティブ出力系(バブル出力, 沈滞出力)を示した。これは、一般に、この世に、個体系としても、集団系としても、生あるものとして出現したならば、その生が生きた状態が望ましい。この状態を目的系とした場合、図には、和中目的系とした。この目的が達成された場合が生出力状態である。ここにある目的A系が市場が入つて来て、市場を通過するとする。ところが市場は本来マルチのシステムであり、一般に他の目的入力(ネガティブな場合も)があり、これをB目的系とする。この結果、図に示されたような、二つのネガティブな出力が出てくる可能性がある。

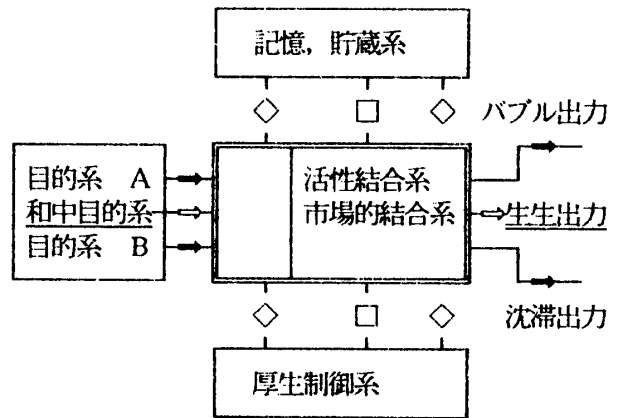


図6. 生出力システムと、二つのネガティブ出力系(バブル出力, 沈滞出力)

4. むすび

今回は、感性対応のシステムを、線路・回路の立場から考えている過程で、市場的機能システム、特にそれに付随する、市場の失敗的系に関することを考えた